

# 伊勢市教育研究所

# たより



## <第 13 号>

http://www.ise-mie.ed.jp/~kenkyusyo  
E-mail:kyo-kenkyu@city.ise.mie.jp

平成 30 年 2 月 26 日  
伊勢市教育研究所  
伊勢市桜木町 55-1 (旧さくらぎ保育所)

### 「伊勢市教育研究所 教育研究プロジェクト」

## 社会科副読本「わたしたちの伊勢市」活用に係る実践研究

伊勢市では、小学校 3,4 年生が社会科副読本（創刊 昭和 47 年 4 月）「わたしたちの伊勢市」を用いて、地域学習を進めています。これまでに、たくさんの先生方のお力により、学習指導要領の改訂や社会状況の変化に照らして、冊子の改訂を重ねてまいりました。西良孝先生（元御菌小学校 校長）には、長年に渡り、助言者として関わっていただいております。

### ◆ 中島小 谷畑教諭「タイヤをつくる工場を調べよう」 ◆



11 月 30 日（木）、中島小学校の 3 年生で授業研究会を行いました。社会科副読本を活用しての公開授業ということで、社会科副読本資料作成研究会の皆さんにたくさんご参加いただきました。

授業者は谷畑教諭。この実践研究では、冊子の第 2 章「伊勢市ではたらく人びと」の中の「タイヤをつくる工場」に焦点を絞った授業を進めていただきました。学習計画表を活用したり、「横浜ゴム」の工場見学を実施したりするな

ど、地域学習ならではの取組を進めていただきました。

社会科でめざすのは、事実を基に実感を伴って考える授業づくりです。だからこそ、子どもたちが夢中になって考え話し合う魅力的な題材やタイムリーな資料の提示が大切です。当日の授業では本物のタイヤや教科書の拡大版を提示し、子どもたちが関心をもって思考できるように工夫されていました。



#### 【助言者の西良孝先生より】

- 事例の中にこそ一般性がある。  
地域学習は事例の学習である。地域学習を通して子どもたちの他を見る目が育ち、見えてくるものがある。
- ヤマ場になるところから指導案を書いてみる。  
谷畑教諭の本時であれば、「こんなにもいいに検査するのはなぜか。」から書き始め、いかにここに到達させるかが大事である。オープンエンドでもよい。時には、「なんでやる？」と中途半端で残した方が記憶に残ることもある。
- 子どもから「なんで？」を出させたい。感動させたい。
- 子どもたちが納得できる事実がほしい。資料は困ったときに出したい。
- 授業記録をとって活用したい。  
よい授業は、子どもの発言で変わる。授業記録を分節でとらえて検証するとよい。

#### 「こんなにもいいに検査するのはなぜか。」

- T すごく検査が多いですね。なぜ、こんなに検査をするのですか。
- C タイヤがポコポコに走らないかをみるため。
- C ていねいにやったら、タイヤが丸くなり、お金がたまる。ポココとなったら走りにくくてタイヤにならない。
- C ポコポコしていてヘラヘラだとコントロールしにくい。
- T 例えば家の人が運転しているとき、右によっていくタイヤはどう？
- C 命の危険につながる。
- C 事故が起こる。
- C 死につながる。
- T だからこういうタイヤは…
- C 買いたくない。
- C 買った意味がない。損した気分。
- C すぐに壊れるから買いたくない。
- C 昨日、テレビでやっていた。飛行機のやつで、下りたときにタイヤがないままで事故になった。
- T （高速道路での交通事故発生の要因を表すグラフを提示）一番多い 91%は何が原因だと思う？
- C タイヤ。
- T そう。タイヤが原因の事故は 91%。タイヤが古くなったり、傷がついていたりすると事故になるね。薄くなっても車検に通らず運転禁止です。タイヤは命の危険につながるね。やっぱりちゃんと検査をしたものを出荷しなければと教えてくれます。（チャイム）



## 「伊勢市教育研究所 教育研究プロジェクト」

# 歴史教材「ふるさと 伊勢」活用に係る実践研究

伊勢市では、小学校高学年以上が授業で活用できる歴史教材「ふるさと 伊勢」を作成し、地域の歴史学習を進めています。歴史教材の創刊は平成24年11月です。平成25年度から、この冊子を用いた授業研究を本格的に開始し、授業を公開していただいております。

### ◆ 佐八小 田中教諭「ふるさと再発見～藤波遺跡を出発点にして～」 ◆



12月5日(火)、佐八小学校の6年生で歴史教材を活用しての授業研究会を行いました。現在の歴史資料作成研究会の皆さん、OBの皆さんにも多数ご参加いただきました。

佐八小学校は県内有数の遺跡である、「藤波遺跡」の上に建っています。この歴史的な巡り合わせの中で、「藤波遺跡」を教材化しない手はないということで、今回、授業研究を進めていただきました。



子どもたちが拾った矢じりの標本

「藤波遺跡」を題材として授業を進めるうえで、田中教諭は、子どもたちの学習に向かう動機付けを大切にしたいと考えられました。そこで、地域学習の根幹でもある、本物との出会いが仕掛けられました。石器との出会い、宮川流域案内人の田村陽一さんとの出会いです。それらの出会いによって、子どもたちの学習姿勢が大きく変わると聞かせていただきました。



宮川流域案内人の田村さんと



当日の子どもたちの様子からも、魅力的な「題材選び」と「課題設定」の大切さを学ばせていただきました。助言者として、橋本顕彦先生(二見浦小学校 教頭)をお迎えしました。事前協議にも加わっていただき、たくさんのご指導をいただくことができました。

当日の子どもたちの様子からも、魅力的な「題材選び」と「課題設定」の大切さを学ばせていただきました。助言者として、橋本顕彦先生(二見浦小学校 教頭)をお迎えしました。事前協議にも加わっていただき、たくさんのご指導をいただくことができました。

#### < 参観者の意見より > (抜粋)

#### 【助言者の橋本顕彦先生より】

##### ■ 子どもと教材に接点がないといけない

子どもと教材をつなげるために大切なことは

- 教師が、子どもにつけたい力・目の前の子どもに出会いたいことを考え、「ある教材」に向き合い、それを吟味し、その教材がもつ価値を分析し、クラスの子どものための価値を見出すこと
- 価値を見出すことに加えて、「その教材」のもつ価値に迫れるよう、子どもと教材のもつ価値との接点を見出すこと

##### ■ 価値に迫る切り口を見つけなければならない

切り口を見つけるために大切なことは

- 自分が教材や人に惚れ込み、人柄に惚れ込み、何度も通うこと
- 相手と人間として交流すること
- その中でふと出た「こと」や「もの」に心を留めるアンテナをもつこと
- 授業のねらいを相手にも伝えること

ご自身の実践を基に熱くお話いただきました。

- 子どもたちが「本物」の史料に触れていることが何よりも良かった。子どもたちの「発見」が出発点となり、学びが広がっていくとよいと思う。
- 社会科(歴史)ということに限らず、「総合的な学習の時間」において、この歴史教材を活用するという発想がとても良いと思った。
- 自分の学校区(地域)のすばらしさを子どもたちに伝えたり、感じさせたりする大切さを感じた。学校内で系統立てた実践を積み上げ、6年かけて地域を誇れるような深い学びを保障していくことが大切だと分かった。
- 子どもたちの発言で驚いたのが、「サヌカイトがなぜ矢じりに向いているのか?」「それを確かめる方法は?」という問いに、「実際に(矢じりを)使ってみたらいい。」という意見だった。子どもたちの素直で本質的な意見が出てくることに小学生の感性を感じた。
- 3000年前の人々の暮らしぶりや思いなど、今回の授業の考古学から史学へ話が進んでいくことを期待している。私たちの命が先人からずっとこの場所で受け継がれてきた事実にご気付くことの重要性を感じた。